

1 題材名 2年生になって【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 4月

2 題材について

児童は入学してから1年が過ぎ、自分たちの生活の中で学級のよさを感じ始めている。同時に学級の課題についても気付き始めている。年度初めのこの時期に、2年生になったことを学級全体で話し合い、自覚をもって生活を送ろうとする目標をもつことができるようにしたい。また、この活動を通して、一人一人が希望や目標をもち、それぞれの資質や能力を生かしながら学級の仲間と協力して居がいのある学級作りをしていくことも目指したい。

3 題材の目標

- 係活動や清掃活動などで、自分たちが活躍すべき場や活動の内容について関心を持ち、進んで調べ、2年生としての目標をもつとともに、居がいのある学級の在り方について考えようとする。(関・意・態)
- 係活動や清掃活動などで自分たちが活躍すべき場や活動について、友達と話し合いながら、2年生としての目標と居がいのある学級作りについて考え、自分の考えを発表することができる。(思・判・実)
- 2年生として自分たちが学級をよくしていくためには、係活動や清掃活動など様々な場面で周りのことを考えて活動し、協力していく必要があることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 係活動や清掃活動などで、周りのことを考えて活動していく必要があることに気づき、実践しようとする。(実践力)
- ◆ 学級の一員として自分たちが活躍することが、学校をよくしていくことにつながることを知らせ、2年生としての役割や責任の大切さを伝える。(1-(2) 勤勉・努力)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 2年生として必要な仕事の内容や行事での役割等について調べておく。 (休み時間・ふれあいタイム)	○ 年間行事計画を提示したり、昨年度の2年生の活動の様子を知らせたりして、児童が考えやすいような資料を用意する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「2年生でがんばりたいこと」

② 活動のねらい 2年生の在り方を考え、自分のめあてをもとう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 調べてきたことをもとに、2年生の役割や責任について、教師の話聞く。	○ 1年生と2年生の違いを、年間行事計画を示しながら説明するなど、具体例を挙げて話したりする。
展開	2 調べたり話し合ったりして分かったことや2年生での夢や希望、不安などを発表する。 3 発表し合ったことをもとに、2年生としての在り方を話し合い、目標に書く。	○ 様々な気持ちを自由に話し合える雰囲気作りをする。 ○ 自分たちのこれからの役割を自覚し、考えられるようにするために、友達の発表した意見に付け足す意見や反論する意見をつながながら発表できるよう助言する。 ◇ 2年生としての自分の目標を書くことができたか。
終末	4 2年生としての目標を発表する。	○ 目標カードを教室の壁面に掲示し、児童がいつでも確認、振り返りができるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 係活動や清掃活動などの様々な場面で自分のめあてをもち、活動に取り組む。 (常時活動)	○ 係活動や清掃活動などの様々な場面で、児童の活動のよさを見つけ、称賛していく。 ◇ 自分たちの活動によって、学級がよくなっているということに気付いているか。

1 題材名 楽しい遠足【内容(2) 希望・目標】

指導の時期 5月

2 題材について

春の遠足では、電車に乗ったり、龍門の滝で自然と触れ合う体験をしたりグループ活動を行ったりする。そこで、本題材では、公共の場所でのルールやマナーについて考えることを通して、決まりを守り、公共物を大切にする態度を養いたい。また、よりよいグループ活動にするためのテーマや約束を話し合う活動を通して、遠足に主体的に楽しく参加しようとする意欲や互いの立場を思いやりながら協力的な態度で参加しようとする心情を育てたい。

3 題材の目標

- 龍門の滝での活動に関心をもち、よりよい遠足にするための話合いに意欲的に参加しようとしている。(関・意・態)
- 公共の場所でのルールやマナーを守った過ごし方を考えたり班の友達と協力しながら過ごすために大切なことを考えたりして、自分の意見を発表することができる。(思・判・実)
- 公共の場所では一般の人たちの迷惑にならないように過ごすことの大切さが分かる。また、班活動では互いの立場を考えて協力的に過ごすことが楽しい遠足につながる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 場に応じたふさわしい態度を知り、ルールやマナーを守って過ごせるよう友達と声をかけ合い、コミュニケーション能力を身に付ける。(技能)
- ◆ 龍門の滝でのよりよい活動について考え、実践することを通して、公共の場所での約束や決まりを守り、公共物を大切にする態度や、友達と仲良く協力する心情を育てる。(4-(1) 公德心、規則の尊重)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 遠足の概要について、教師の説明を聞く。 (朝の会等)	○ 遠足の日程や内容について、マップや見取り図等の資料を用いて、遠足への期待感を高めるとともに、具体的なイメージをもつことができるようにする。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「楽しい遠足するために守ることを考えよう」
- ② 活動のねらい 遠足がみんなにとって、楽しく思い出に残る1日になるように、めあてや約束を話し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」「活動のねらい」を確認し、遠足の日程などについて、教師の話聞く。	○ 「みんなにとって楽しい」ということの意味を考えるよう促し、公共のマナーや友達と協力することを意識して話し合うことができるようにする。
展開	2 公共の場所でのルールやマナーについて、全体として気を付けることを話し合う。 ・ 電車の中の過ごし方 ・ 集合の仕方 等	○ 自分たちが活動する場所は公共の場であるということを踏まえ、これまでの経験をもとに、どんなことに気を付ければよいかを話し合えるようにする。 ○ 楽しい活動にするためのグループのめあてや約束を話し合い、グループの名前やテーマを決めるよう促し、互いの考えを発表できるようにする。
	3 班ごとにめあてや約束を話し合う。 ・ 安全なところで遊ぶ ・ 順番を守る ・ 勝手な行動をしない	◇ 公共の場所では、一般の人たちの迷惑にならないように過ごすことの大切さが分かったか。 ◇ 公共の場所でのルールやマナーを守った過ごし方や班の友達と協力して過ごすために大切なことを考え、自分の意見を発表することができたか。
終末	4 本時の活動を振り返り、遠足の決まりや約束について教師の話聞く。	○ 遠足への参加の仕方について、友達の意見をよく聞けたか、自分の意見を伝えられたかを問いかけ、本時の振り返りが具体的にできるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 班ごとに集合したり整列したりする練習を行う。 (適宜)	○ 話し合って決めためあてや約束がきちんと守られるように、適宜助言するとともに、望ましい言動を称賛する。
・ 決まりや約束を守り、遠足を行う。(当日)	◇ 班活動では、互いの立場を考えて協力的に過ごすことが楽しい遠足につながるということが分かったか。

1 題材名 安全な登下校【内容(2) 健康・安全(安全)】 指導の時期 5月

2 題材について

毎日の登下校の仕方を振り返ることにより、慣れている道だからこその油断や危険があることに気付かせるようにする。児童は2年生に進級し、登下校の仕方をよく理解している。1年間登下校をして、「危ない!」と感じた体験を発表し共有し合うことで、さらなる安全意識の高揚を図る。併せて、交通ルールの確認をし、交通安全について徹底させるようにしたい。

3 題材の目標

- 交通ルールを再確認し、安全な登下校をしようとする意識を高めている。
(関・意・態)
- 自分が経験したヒヤリ体験を発表し合い、安全な登下校の仕方について考えることができる。
(思・判・実)
- 交通ルールについて確認し、安全な登下校の仕方が分かる。
(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◆ 交通ルールを守って安全な登下校をすることは、自分の命を守るためにとても重要なことだと認識させる。(3-(1) 生命尊重)

★ 登下校時の危険について理解し、安全な行動ができるようにする。(安全指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 自分の登下校の様子や、今までに体験したことのあるヒヤリ体験について振り返っておく。 (休み時間等)	○ 登下校の様子を振り返らせ、問題点を明確にすることで、活動の必要性を高める。 ○ 今までにどんな危険な場面があったかを思い出させておくことで、活動に入りやすくする。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「登下校の時のヒヤリ体験を発表しよう」
② 活動のねらい 交通ルールを再確認し、安全な登下校をしようとする意識を高め、実践する態度を育てる。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 安全な登下校の大切さについて教師の話を聞く。	○ 小学生の交通事故等のニュースを取り上げ、身近な危険として意識させる。
展開	2 自分や通学班の登下校の様子について発表する。 ・ 一列歩行している。 ・ バス停で遊んでいる。 3 ヒヤリ体験について発表する。 ・ 左右確認をきちんとしなかったら、車が来ていた。 4 安全な登下校の仕方、交通ルールについて話し合う。	○ 登下校の様子の悪いところだけでなく、よいところも発表させ、安全な登下校の仕方につなげて考えられるようにする。 ○ ヒヤリ体験を発表し共有し合うことで、いつでも、どこでも、誰にでも起こりえることだということを認識させる。 ○ ヒヤリ体験の原因を考えさせ、交通ルールに対しての意識を高める。 ◇ 安全な登下校をするために必要な交通ルールについて、進んで考えることができたか。
終末	5 自分が心がけたいことを考える。	○ 自分で心がけることを明確にすることで、実践意欲を高めるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分が心がけたいと思ったことに基づいて実践する。 (登下校時)	○ 登下校の様子を見守りながら、実践できているかどうか、随時声をかけるようにする。

1 題材名 歯の健康【内容(2) 健康・安全(体)】

指導の時期 6月

2 題材について

低学年は、乳歯から永久歯へ生え変わり始める児童が出てくる時期である。2年生は、多くの児童が歯が抜けるという経験をするか、すでにしていることが考えられる。歯は自然と抜けることもあり、抜かなければならなくなることもある。この違いはむし歯が関係しているが、この年齢の児童はあまりよく理解できていない。ここでは、むし歯の原因やむし歯を防ぐ方法を話し合わせたり、養護教諭の協力を得て専門的な立場から実演や説明をしてもらったりすることで、むし歯予防の意識を高め、健康な歯を保つ意識を高めさせたい。

3 題材の目標

- 自分の歯がどういう状況かについて考えたり、歯の生え替わりについて知ったりすることを通して、むし歯予防への興味・関心をもち、積極的にむし歯予防を行おうとする。(関・意・態)
- これまでの生活経験や養護教諭の説明をもとに、むし歯を防ぐ方法を考えて自分の意見を発表することができる。また、自分のめあてをもとに、むし歯予防を実践することができる。(思・判・実)
- むし歯の原因を知るとともに、おやつの摂り方とブラッシングに気を付ければむし歯になりにくいことを知り、毎日欠かさずむし歯予防に努めることが大切であることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ◆ むし歯予防についての話を通して、毎日欠かさずむし歯の予防に努めることが大切であることに気付かせ、健康に留意しながら規則正しい生活が送れるようにさせる。(1-(1) 節度・節制、自立)

★ 歯の健康について考える活動を通して、生活習慣を見直し、よりよい生活習慣の定着を図る。(保健指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯ブラシの点検をする。(給食等) ・ むし歯の原因を考える。(朝の会・帰りの会等) 	○ むし歯になった時のことを想起させ、むし歯の原因を事前に考えさせるよう全体に声をかけることで、むし歯に対する関心を高める。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「むし歯ゼロ大作戦！」
- ② 活動のねらい みんながむし歯にならないために、むし歯になるわけやむし歯にならない方法を話し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 むし歯になったときの様子を発表する。	○ むし歯の有無を問いかけ、むし歯の時の様子を発表させる。
	2 教師と養護教諭の話を聞く。	○ むし歯がない児童も、むし歯を防ぐ方法を考えることを伝え、課題意識や目的意識をもたせる。
展開	3 むし歯の原因について話し合う。	○ 普段の自分の生活を想起させる。
	4 おやつの摂り方を話し合う。	○ 養護教諭が具体物や資料を提示して、むし歯の原因やおやつの摂り方、ブラッシングについて説明することで、児童の理解を深められるようにする。
	5 おやつの摂り方やブラッシングについて、養護教諭の話を聞く。	○ むし歯の原因や各家庭の実態から、自分の生活に合ったむし歯をなくす方法やむし歯の予防方法を考えるようにする。 ◇ 話し合ったことや聞いたことをもとに、むし歯を防ぐ方法を考え、自分の意見を発表することができたか。
終末	6 むし歯予防についての話し合いを振り返る。	○ むし歯の予防のために今後実践していきたいことを記述させ、実践意欲が高まるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のめあてを意識してむし歯予防を行う。(随時) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業で用いた資料を提示し、自分のめあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿ってむし歯予防を積極的に行おうとしているか。

1 題材名 1 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 7 月

2 題材について

小学校生活が始まって、1 年生の児童の生活環境は大きく変わった。うれしかったことや楽しかったこと、大変だったことなどを話し合わせ、1 学期間の自分たちのがんばりを振り返るとともに、2 学期に向けて生活をさらによくしていこうとする意欲を高めさせたい。

3 題材の目標

- 1 学期の学習や生活について振り返り、うれしかったことや楽しかったこと、大変だったことについて考え、2 学期のめあてを考えようとする。(関・意・態)
- 1 学期の学習や生活を振り返り、よかったところや直したいところを発表することができる。(思・判・実)
- 1 学期の反省をもとにして 2 学期のめあてを立てることを通して、課題意識を持って生活をさらによくしていこうとするものの大切さに気付く。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付く、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくものの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等)	○ 1 学期の生活を振り返らせ、どのような生活を送ってきたかについて、うれしかったことや楽しかったこと、大変だったことを中心に記述させる。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「1 学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 1 学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、1 学期の生活について話し合う。	○ 学習や生活の様子を想起できない児童には、学校行事や学年行事等の様子を伝え、想起できるよう支援する。
	2 教師の話聞く。	○ 1 学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。
展開	3 2 学期にどのように生活していきたいか話し合う。	○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。
	4 2 学期のめあてを記述する。	○ 1 学期のめあてで達成できなかったものは、2 学期に継続してもよいことを伝える。
	5 記述したことを発表する。	◇ 1 学期の生活について振り返り、2 学期のめあてを立てることができたか。
終末	6 教師の話聞く。	○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、2 学期の学校生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動)	○ めあてを掲示し、めあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿って生活しようとしているか。

1 題材名 夏休みの生活【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 7月

2 題材について

小学校生活最初の夏季休業は、1年生の児童にとって楽しみである一方、課題等に計画的に取り組んでいく必要があるという大変さもある。保護者には、学年懇談会や学年だより等で協力を呼びかけるが、児童自身も、計画を立てて取り組むことの大切さを理解したり、やり遂げた達成感を味わったりすることが重要である。

そこで、夏季休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、どのように計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせ、夏季休業をよりよいものにしていこうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 夏季休業中の学習や生活について、進んで計画を立てたりめあてを考えたりしようとする。 (関・意・態)
- 夏季休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画を知り、計画を立てたり、めあてを記入したりすることができる。 (思・判・実)
- 夏季休業中の学習や生活について、計画を立てて取り組むことの大切さを知る。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ◆ 計画を立て、自分で立てためあてを意識することによって、節度ある、自立した生活を送ろうとする態度を育てる。(1-(1) 節度・節制、自立)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 夏休みの計画表に、夏季休業中の予定を記入する。 (家庭)	○ 学年懇談会や学年だよりで、夏季休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した夏休みにしよう」

② 活動のねらい 夏休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、夏休みの生活について、教師の話聞く。	○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について
展開	2 夏休みのめあてを立てる。 3 夏休みの学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。	○ 無理なく取り組めるめあて、計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、夏休みの計画を立てているか。
終末	5 教師の話聞く。	○ 夏季休業の過ごし方の大切さを説明し、夏季休業の生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画やめあてを意識して夏休みの生活を送る。 (夏休み)	○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に夏季休業を過ごすことができたか。 (課題、日記等の提出状況)

1 題材名 2年〇組のよさ【内容(2) 人間関係】

指導の時期 9月

2 題材について

常に一緒に生活している学級の友達について、見直すきっかけとなるようにする。友達のよさを、日常の様々な生活の場面から見つけ合ったり、それを認め合ったりする活動を中心として題材を展開する。特に、係活動や当番活動などに焦点をあて、目立たない仕事でも忘れずに責任をもって取り組んでいる児童のよさが認められるようにしていく。

このような活動を通して、一人一人の学級への居がい感や所属感を高めるとともに、学級の中に認め合い励まし合う雰囲気を高めていきたい。

3 題材の目標

- 学級の一員として係活動や当番活動を振り返り、友達のよさを積極的に認め合い、励まし合おうとする。(関・意・態)
- 係活動や当番活動の様子から学級の仕事の大切さや友達のよさについて考え、「ありがとうカード」を書くことができる。(思・判・実)
- 話し合い活動や「ありがとうカード」を書くことを通して、学級の仕事の大切さや友達のよさが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 「ありがとうカード」を書くことを通して、友達のよさを積極的に見つけることができる。(技能)

◆ 友達とより仲良くなったり、助け合ったりすることができるようにする。

(2-(3) 友情・信頼、助け合い)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ くじ引きを行い、誰の「ありがとうカード」を作るかを定める。 (休み時間等)	○ 担当になった友達のよさを、同じ係や当番の子にインタビューするなどの取材をしておくよう促し、「ありがとうカード」を書くことができるようにする。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「クラスの友達に「ありがとうカード」を贈ろう」

② 活動のねらい 友達一人一人が、当番や係でがんばっていることを見つけて、「ありがとうカード」を贈ろう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「ありがとうカード」について教師の話聞く。	○ 活動テーマの目的や方法について教師が説明することで、友達のよさを具体的に見つけ、認め合うというねらいを意識させる。
展開	2 自分がカードを贈る友達のためのカードを作成する。 ・ いつも黒板をきれいにしてくれて、ありがとう。 ・ 配膳台をきれいに拭いてくれて、ありがとう。 3 「ありがとうカード」表彰式を行う。	○ 児童がスムーズにカード作りに取り組めるよう、事前に、友達のよさについて記すことができるカードを用意しておく。 ○ 表彰式の間を設けることで、互いのよさについて、児童が具体的に分かり合えるようにする。 ◇ 係活動や当番活動の様子から、学級の仕事の大切さや友達のよさについて考え、「ありがとうカード」を書くことができたか。 ◇ 「ありがとうカード」を交換し合うことで、友達や自分のよさを認め合うことができたか。
終末	4 感想を伝え合う。 5 教師の話聞く。	○ 「ありがとうカード」を交換し合った感想を伝え合う場を設けることで、互いの気持ちを分かり合うことができるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 教室の壁面を利用して、互いにもらった「ありがとうカード」を掲示する。 (常時活動)	○ もらった「ありがとうカード」を掲示する場を設け、随時交換し合う機会をつくることで、互いを認め合う雰囲気をつくることができるようにする。

1 題材名 学校図書館の利用【内容(2) 学校図書館】 指導の時期 10月

2 題材について

読書について、荒川小学校では、月曜日と木曜日の朝の学習として読書の時間を取り入れたり、校内読書週間を設け読書を促したり、南那須図書館と連携して巡回図書館を定期的に行ったりし、児童に読書の大切さや面白さを伝える取り組みを行っている。今回の題材では、自分のお気に入りの本について紹介し、さらに児童たちの読書の意欲を高めたい。今までに読んだことのなかった本や、新しい分野の本に触れる機会を通して、読書の幅を広げたり、読書への関心を高め、進んで読書をする態度を育てていきたい。

3 題材の目標

- おすすめの本を見つけるために、進んで本を読んだり、紹介しようとしたりしている。
(関・意・態)
- おすすめの本を見つけ、紹介することができる。
(思・判・実)
- おすすめの本を見つけるために、本を読んだり、本を紹介することを通して、読書の楽しさや大切さが分かる。
(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 本を紹介する活動を通して、今までに読んだことのなかった本や、新しい分野の本にも興味・関心をもち、発表を認め合いながら話を聞こうとする態度を養う。
(実践力)

- ◆ 様々な分野の本に触れることで、読書への意欲を高め、内容を通して心情を読み取ったり考えたりし、相手への思いやりの気持ちをもち、(2-2) 思いやり・親切

- ★ 本に親しみ、読書の楽しさ、喜びを味わわせ、豊かな心情を育てる。
(学校図書館教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 本を読み、おすすめの本を見つけておく。 (朝の学習・ふれあいタイム)	○ おすすめの本として紹介できそうな本を選ぶよう声かけをする。本を決められない児童には、何冊かの本を提示する。 ○ ワークシートを準備し、紹介する時に活用できるようにする。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「おすすめの本を紹介し合おう！」

- ② 活動のねらい おすすめの本を紹介し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 一人ずつ、おすすめの本を紹介していくことを説明する。	○ おすすめの本の紹介の仕方をお手本として示し、発表がスムーズに進むようにする。 ○ 必要に応じて書画カメラを準備し、本やワークシートを拡大して提示する。
展開	2 おすすめの本を紹介し合う。 3 紹介に対して、感想を伝え合う。 4 紹介した本とワークシートを掲示する。	○ 本の内容や読んだ感想を発表するよう伝える。 ○ 実際の本やワークシートを提示しながら発表するよう指示する。 ◇ おすすめの本を紹介したり、友達の発表を聞いて、読書への興味・関心を高めることができる。
終末	5 本時の活動内容を振り返り、感想を発表する。	○ 本時の活動内容を振り返り、感想を記入させる。 ◇ 本時の活動について感想を記入したり、気になった本の名前を書いたりしている。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 活動後に掲示したワークシートや本を見て、進んで読書する。 (常時活動)	○ ワークシートにコメントを記入し、児童の読書への興味・関心を高める。 ○ 定期的に掲示物を更新し、様々な本に触れる機会を増やす。 ○ 読書の記録を活用し、読んだ本の記録を目に見える形で残しておくように伝える。

1 題材名 正しい言葉遣い【内容(2) 生活習慣】 指導の時期 1 1 月

2 題材について

2年生になり、児童は学校生活にも慣れてきた。友達との関係も深まってきているが、粗雑な言葉遣いをしたり、友達を呼び捨てやあだ名で呼んだりして、気付かないうちに傷付けている場合がある。そこで、正しい言葉遣いについて話し合う活動を通して、礼儀について考えさせ、周りの人に明るく思いやりの心をもって接することができるようにしたい。

3 題材の目標

- 正しい言葉遣いについて興味・関心をもち、意欲的に言葉比べ体験を行い、進んで自分の意見を述べようとする。また、積極的に正しい言葉遣いをしようとする。
(関・意・態)
- これまでの経験や言葉比べ体験をもとに、正しい言葉遣いをするために気を付けることを考えて自分の意見を述べることができる。また、周りの人に正しい言葉遣いで接することができる。
(思・判・実)
- 正しい言葉遣いは自分も相手も気持ちよく過ごすために必要なものであることに気付く、明るく思いやりの心をもって接することが大切であることが分かる。
(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 自分や友達の言葉遣いを振り返ることにより、正しい言葉遣いについて考え、大切さに気付く。(知性)
- ◆ 礼儀は人間関係や社会関係を円滑にするためにとても大切であることに気付かせ、礼儀正しく接して、自分も相手も気持ちよく過ごせるようにする。(2-(1) 礼儀)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 言葉遣いに関して経験したことをワークシートに書く。 (休み時間等)	○ 言葉遣いでよい思いや嫌な思いをした経験を事前に書かせることで、傾向をつかみ、本時が円滑に進むようにする。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「言葉比べをして、正しい言葉づかいを考えよう」
- ② 活動のねらい 周りの人が気持ちよく過ごせるように、正しい言葉遣いについて話し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 生活や学習の中での言葉遣いの様子について、教師の話聞く。	○ 周りの人に対してどんな言葉遣いをしているか、なぜ正しい言葉遣いが必要かを問いかけることで、言葉遣いに対する課題意識や目的意識をもたせ、学級全体で共有できるようにする。
展開	2 どんな言葉を言われたときに、どんな思いをしたか発表し合う。 3 グループごとに言葉比べ体験をする。 4 言葉比べ体験をして思ったことを出し合い、正しい言葉遣いをするために気を付けることを話し合う。 5 正しい言葉遣いの心構えや、ふわふわ言葉を出し合う。	○ 言葉遣いでよい思いや嫌な思いをした経験を発表させることで、課題意識をもたせる。 ○ ロールプレイングやシミュレーション等の方法を用いて、正しい言葉遣いとよくない言葉遣いを比べさせる。よくない言葉遣いは相手の心を傷付けることや授業の雰囲気悪くすることに気付かせ、正しい言葉遣いをするための心構えを考える気持ちを高めるようにする。 ◇ 正しい言葉遣いをするために気を付けることを考え、自分の意見を述べることができたか。
終末	6 言葉比べ体験で見られたよさを伝え合い、正しい言葉遣いについて、教師の話聞く。	◇ 正しい言葉遣いは、自分も相手も気持ちよく過ごすために必要なものであることに気付く、明るく思いやりの心をもって接することが大切であることが分かったか。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 正しい言葉遣いを意識し、自分の周りの人に明るく思いやりの心をもって接する。 (常時活動)	○ 学級全体で話し合った正しい言葉遣いの心構えや、ふわふわ言葉等を掲示することで、言葉を丁寧正しく使う意識が高まるようにする。 ◇ 周りの人に正しい言葉遣いをする事ができているか。

1 題材名 2学期の反省【内容(2) 希望・目標】

指導の時期 12月

2 題材について

一年間の中で最も長い2学期が終わりに近付いてきた。2年生の児童は、「生活科フェスティバル」や「愛和苑訪問」などを経験し、相手のことを考えて行動することの大切さを実感し、ひと回り成長した学期であったといえる。そこで、2学期の活動や、自分たちの成長を確かめながら今学期を振り返り、3学期へ向けてさらに自分を伸ばしていきたいという意欲を高めさせたい。

3 題材の目標

- 2学期の学習や生活について振り返り、楽しかったことやがんばったこと、大変だったことについて考え、3学期のめあてを考えようとする。(関・意・態)
- 2学期の学習や生活を振り返り、よかったところや直したいところ、これからもっと伸ばしていきたいところを考えることができる。(思・判・実)
- 2学期の反省をもとにして3学期のめあてを立てることを通して、課題意識を持って生活をさらによくしていこうとすることの大切さに気付く。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付く、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくことの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等)	○ 2学期の生活を振り返らせ、どのような生活を送ってきたかについて、楽しかったことやがんばったこと、大変だったことを中心に記述させる。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「2学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 2学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、2学期の生活について振り返る。	○ 学習や生活の様子を想起できない児童には、学校行事や学年行事等の様子を伝え、想起できるよう支援する。
	2 教師の話聞く。	○ 2学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。
展開	3 3学期にどのように生活していきたいか話し合う。	○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。
	4 3学期のめあてを記述する。	○ 2学期のめあてで達成できなかったものは、3学期に継続してもよいことを伝える。
	5 記述したことを発表する。	◇ 2学期の生活について振り返り、3学期のめあてを立てることができたか。
終末	6 教師の話聞く。	○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、3学期の学校生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動)	○ めあてを掲示し、めあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿って生活しようとしているか。

1 題材名 冬休みの生活【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 12月

2 題材について

児童は小学校の長期休業を何度か経験し、休業中の過ごし方を学んできたが、計画的に生活することは難しいということを実感している児童もいる。低学年の児童が計画通りに生活していくためには、やはり保護者の協力を得ることが不可欠である。児童には、計画を立てて取り組み、やり遂げる達成感を味わわせたい。

本題材は、冬季休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、夏季休業で学んだことを生かして、どのように計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせる。そして、冬季休業をよりよいものにしていこうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 冬季休業中の学習や生活について、進んで計画を立てたりめあてを考えたりしよう (関・意・態)
- 冬季休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画を知り、計画を立てたり、めあてを記入したりすることができる。 (思・判・実)
- 冬季休業中の学習や生活について、計画を立てて取り組むことの大切さを知る。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

◆ 計画を立て、自分で立てためあてを意識することによって、節度ある、自立した生活を送ろうとする態度を育てる。(1-(1) 節度・節制、自立)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 冬休みの計画表に、冬季休業中の予定を記入する。(家庭)	○ 学年懇談会や学年だよりで、夏季休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した冬休みにしよう」

② 活動のねらい 冬休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、冬休みの生活について、教師の話聞く。	○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について
展開	2 冬休みのめあてを立てる。 3 冬休みの学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。	○ 無理なく取り組めるめあて、計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、冬休みの計画を立てているか。
終末	5 教師の話聞く。	○ 冬季休業の過ごし方の大切さを説明し、冬季休業の生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画やめあてを意識して冬休みの生活を送る。(冬休み)	○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に冬季休業を過ごすことができたか。(課題、日記等の提出状況)

1 題材名 バランスのよい給食の食べ方【内容(2) 給食・食習慣】 指導の時期 1月

2 題材について

食生活を取り巻く社会環境の変化に対応し、将来に向けて成長期にある児童の食生活を見直す活動を中心として題材を展開する。特に好きなものばかり好んで食べるといった偏食は、体や生徒湯に影響を与えるということを考えさせることで、苦手なものも進んで食べようとする姿勢を育てていきたい。

3 題材の目標

- これまでの自分の食べ方を振り返り、食べ方を改善しようとする。(関・意・態)
- バランスのよい食べ方について考え、自分の意見を発表することができる。(思・判・実)
- 好き嫌いをしないで、何でもバランスよく食べることの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◆ これまでの自分の食生活を見つめ直すことで、よりよい食生活について考えたり、調理員さんへの感謝の気持ちをもって食事をしたりする心情を育てる。(2-(4) 尊敬・感謝)

★ 正しい食事の在り方と、望ましい食習慣を身に付ける。(食に関する指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ ある日の給食の残菜の写真を撮影しておく。 (給食時)	○ 残菜が多く見られた給食の写真を撮影しておくことにより、本時において、自分の食べ方が振り返りやすいようにする。
・ 食べ物の好き嫌いを調べておく。 (休み時間等)	○ 好き嫌い調べをすることにより、自分の好き嫌いの多さに気付かせる。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「給食の食べ方を振り返ろう」
- ② 活動のねらい 自分の食生活を振り返り、バランスのよい食べ方について考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 給食の残菜の写真や好き嫌い調べの結果を見て、思ったことを発表する。 ・ 体によくない。 ・ 調理員さんに悪い。	○ 学級の残菜の様子や好き嫌い調べの結果から、これまでの食事の仕方を考えさせる。 ○ 好き嫌いの多い児童に対しての攻撃にならないよう助言する。
展開	2 好き嫌いせずに食べると、どんなよいことがあるか発表する。 ・ 丈夫な体ができる。 3 自分の食事の仕方について、改善できそうなところを発表する。 ・ 苦手なものでも少しは食べる。	○ 少しでも残さず食べようとする観点から、自分の考えをもったり、発表したりするよう助言することで、食事の仕方について意識付けできるようにする。 ○ 互いの考えを聞き合うことで、自分の食べ方を振り返り、食事に関わる課題を見つけられるようにする。 ◇ 自分の食事の仕方について改善できるところを考えることができたか。
終末	4 バランスのよい食べ方についてまとめる。	○ 自分の食生活を振り返るとともに、今後、どんな食生活をしていきたいか考えられたか問いかける。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分が改善しようと思ったことに基づいて実践する。 (給食時)	○ 食におけるがんばりを認め合い、励まし合うよう言葉かけをすることで実践できるようにする。

1 題材名 3年生になったら【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 2月

2 題材について

1年生の手本として、活躍してきた2年生も、4月から3年生に進級する。上級生の手助けが多かった2年生も、来年度からは中学年の仲間入りを果たし、低学年の手本となっていかなければならない。

そこで、3年生の学習や生活の様子について教師の話を聞いたり、3年生にインタビュー調査やアンケート調査をしたりする活動を通して、児童が来年度の学校生活の見通しをもち、早く3年生に進級したいという自信と意欲がもてるよう、本題材を設定した。

3 題材の目標

- 中学年としての学習や生活の在り方について、進んで話し合ったり調べたりしようとする。 (関・意・態)
- 中学年としての学習や生活について、望ましい在り方を知り、計画を立てたり、めあてを発表したりすることができる。 (思・判・実)
- 中学年としての学習や生活について、できることが増えてたり、活動の幅が広がったりすることに気付き、それを実践していくことの大切さが分かる。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 1年間の生活を振り返ったり、上級生の生活の様子を知ったりすることを通して、来年度の自分のめあてを立てることができる。(技能)
- ◆ 来年度の生活について考えることを通して、生活の見通しをもち、よりよく生活していこうとする態度を育てる。(1-(2) 勤勉・努力)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 3年生にインタビュー調査をしたりアンケート調査をしたりする。 (休み時間)	○ 事前に3学年担任と打ち合わせをし、3年生になってうれしかったことや大変だったことを3年生児童に考えさせておく。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「もうすぐ3年生」
- ② 活動のねらい 3年生に進級する心構えをもとう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、教師の話を聞く。	○ 進級することの意味や、生活や学習の変化について、児童が意欲をもち、安心して考えられるよう話をする。
展開	2 インタビュー調査の結果を発表する。 3 アンケート調査の結果を聞く。	○ 発表の仕方を型で示す。 (例)○○について□□さんに話を聞きました。すると、… ○ 調査の結果を、項目を分けて説明する。 (例)生活について 学習について ふれあいタイムの過ごし方について うれしかったこと・大変だったこと
	4 活動を通して考えた来年度の目標やめあてを発表する。	◇ 調査や話合いの結果から、来年度に向けて見通しもち、意欲的に学校生活を送ろうとしているか。
終末	5 教師の話を聞く。	○ 話合いを振り返り、進級への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 希望をもって学校生活を送る。 (常時活動)	○ 調査の結果を掲示して、進級への意欲を維持できるようにする。 ◇ 意欲をもって学校生活を送ることができたか。

1 題材名 3 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 3 月

2 題材について

2 年生は、生活面や学習面において、1 年生のお手本になろうと、様々な場面で活躍してきた。生活科の学習「おいもフェスティバル」では、1 年生に喜んでもらおうと、一生懸命に計画を立て、フェスティバルを成功させた。また、学校生活にも慣れ、学校の決まりを守ったり、集団生活の中で友達と協力しながら楽しく学校生活を送ってきたりしたことで、自信をもって学校生活に臨んでいると考えられる。そこで、1 年間の活動や自分たちの成長を確かめながら 3 学期を振り返り、3 年生への進級に向けてさらに自分を伸ばしていきたいという意欲を高めさせたい。

3 題材の目標

- 1 年間の活動や自分たちの成長を確かめながら 3 学期の学習や生活について振り返り、楽しかったことやがんばったこと、大変だったことについて考え、来年度がんばりたいことを考えようとする。(関・意・態)
- 3 学期の学習や生活を振り返り、よかったところや直したいところ、来年度さらに伸ばしていきたいところを考え、目標に表すことができる。(思・判・実)
- 3 学期の反省をもとにして来年度のめあてを立てることを通して、目標に向かってがんばることや友達と協力することの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくことの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等)	○ 1 年間の活動や自分たちの成長を確かめられる資料を提示し、3 学期の生活を振り返らせ、楽しかったことやがんばったこと、大変だったことを中心に記述させる。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「3 学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 1 年間の生活と 3 学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、3 学期の生活について振り返る。	○ 普段の授業の様子を伝えたり、学校行事での様子を写真で提示したりすることで、1 年間の活動を想起しやすくする。
	2 教師の話聞く。	○ 3 学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。
展開	3 来年度はどのように生活していきたいか話し合う。	○ これまでの生活を振り返り、よい点を含めて反省することで明確なめあてを立てられるようにする。
	4 来年度のめあてを記述する。	○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。
	5 記述したことを発表する。	○ 3 学期のめあてで達成できなかったものは、来年度に継続してもよいことを伝える。 ◇ 3 学期の生活について振り返り、来年度のめあてを立てることができたか。
終末	6 教師の話聞く。	○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、来年度の学校生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動)	○ 来年度の生活について、進級を意識した言葉をかける。 ◇ めあてに沿って生活しようとしているか。

1 題材名 3年生に向けて【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 3月

2 題材について

学年末・学年始休業は、進級への意識、次年度の学校生活の意欲を高める重要な時間である。これまでの長期休業の過ごし方で学んできたことを生かし、保護者の協力を得ながら充実した春休みを過ごすことで、児童にやり遂げる達成感を味わわせたい。

本題材は、学年末・学年始休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、長期休業で学んだことを生かして、どのように計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせる。そして、学年末・学年始休業をよりよいものにし、進級に向けてがんばろうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、進んで計画を立てたりめあてを考えたりしようとする。(関・意・態)
- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画を知り、計画を立てたり、めあてを記入したりすることができる。(思・判・実)
- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、計画を立てて取り組むことの大切さを知る。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ◆ 計画を立て、自分で立てためあてを意識することによって、節度ある、自立した生活を送ろうとする態度を育てる。(1-(1) 節度・節制、自立)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 春休みの計画表に、学年末・学年始休業中の予定を記入する。 (家庭)	○ 学年だよりで、学年末・学年始休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した春休みにしよう」

② 活動のねらい 春休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、春休みの生活について、教師の話聞く。	○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について
展開	2 春休みのめあてを立てる。 3 春休みの学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。	○ 無理なく取り組めるめあて、計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、春休みの計画を立てているか。
終末	5 教師の話聞く。	○ 学年末・学年始休業休業の過ごし方の大切さを説明し、学年末・学年始休業の生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画やめあてを意識して春休みの生活を送る。 (春休み)	○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に学年末・学年始休業を過ごすことができたか。(課題、日記等の提出状況)

1 題材名 男女のからだのちがい【内容(2) 健康・安全(体)】 指導の時期 6月

2 題材について

男女によってからだに違いがあることに気付き、互いの特性を認め合い、互いに大事にしようとする気持ちを育てたい。また、性器を清潔にすることの大切さを知り、上手に用便後の後始末ができるようにさせたい。

3 題材の目標

- 男女の体の違いについて考えたり、違いを発表したりすることで、自分の性について関心をもち、自分の体を清潔にしようとする態度や男女仲良く生活していこうとする気持ちをもつ。(関・意・態)
- 男女の体の違いに気付き、互いの特性を認め合い、互いに大事にすることができる。(思・判・実)
- 男女の体の違いが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 男女の体の違いについて理解し、互いの体の大切さが分かる。(知性)
- ◆ 男女が互いに体を大切にして、仲良く生活していこうとする気持ちをもたせる。(3-(3)友情・信頼、助け合い)
- ★ 男女の体の違いについて理解し、互いに尊重し思いやる心と態度を養う。(保健指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 男女の体の違いについて学習することを知る。 (朝の会・帰りの会等)	○ 関心をもって授業に取り組めるよう話をする。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「男の子と女の子のからだのちがいについてかんがえよう」
- ② 活動のねらい 男の子と女の子の体の違いを考え、仲良く生活できるようにしよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 黒板の絵を見て、男の子か女の子か当てる。	○ 外見だけでは性別を判断しにくいことに気付かせる。
展開	2 男女の体の同じところと違うところの違いを調べて発表する。 (グループ) 3 養護教諭から外性器の違いについて話を聞く。 4 これからの生活の中で、どんなことに気を付けていけばよいか話し合う。	○ 男女の体のつくりや働きはほとんど同じであることに気付かせる。 ○ からだ地図を作りながら調べる。迷ったときには調べやすいように絵本などを用意しておく。 ○ 外性器の違いについて、説明する。内性器についてもふれる。男の子も女の子も同じように大切な存在であることを伝える。 ○ 排泄時や入浴時の清潔の仕方について押さえる。 ○ プライベートゾーンについて知らせ、性被害防止について指導する。(性器を見せたり触ったりしない) ○ 男女が互いに体を大切にして、仲良く生活していこうとする気持ちをもたせる。 ◇ 話し合ったことや聞いたことをもとに、これからの生活で大切なことを考え、仲良く生活していこうとする気持ちをもつことができたか。
終末	5 分かったことや感想を書く。	○ 男女仲良く生活していくために今後実践していきたいことを記述させ、実践意欲が高まるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の体を清潔にするために注意することを知る。 (随時) ・ 当番活動を行う。	○ 入浴・睡眠など1日の生活の仕方を振り返らせる。 ◇ 男女が協力して活動する様子が見られるか。